

## 教育の理念

国文学科は、複雑な現代社会に対応できる幅広い基礎教養と、国語学・国文学・漢文学に関する専門的な知識の習得と実践的な読解力・分析力の養成を目的とする。すなわち、文学を成り立たせている日本語そのものの研究を行う国語学、上代から現代までの日本文学を研究する国文学、様々な思想とその多様な表現方法を学ぶ漢文学を三つの柱として、古来日本人が育んできた研ぎ澄まされた感性を身につけ、人間への深い洞察力や、論理的な思考力を有する人材の育成を目的とする。

## 卒業認定・学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー)

国文学科は、教育の理念に基づいて定められた下記の1～5の能力を身につけ、所定の期間在学し、所定の単位を修めた学生に対して「学士 (国文学)」の学位を授与する。

(DP1) 建学の理念を実践する力 [理解、関心、意欲、態度、主体性]

仏教の教えと禅の精神に対する理解を深め、それらの教養と文学・文化との関わりを多角的に分析することができる。

(DP2) 幅広い教養、多様性の理解と尊重 [知識、理解、関心、意欲、態度、多様性、主体性、協働性]

人文・社会・自然に対する豊かな教養を習得し、日本の文学・文化の考察とも接続させる広い視野を持っている。また、外国の文学・文化と比較、さらに人種・性差等の多様なあり様を捉える視点を組み合わせ、異質さを受け入れる柔軟さと寛容さを身につけている。

(DP3) 情報分析力と問題解決力 [技能、思考力、表現力、判断力、協働性、主体性]

作品や文献資料の調査と読解分析を反復練習することを通じて、膨大な情報の整理と分析の方法を学び、その能力を鍛える。データの処理等を含めた ICT (情報通信技術) の技能を磨き、十分なリテラシー能力を身につけている。

(DP4) コミュニケーション能力 [表現力、技能、多様性、協働性、思考力、主体性]

「国語国文学演習」等の実践的な授業を通して、自らが発見した問題とその解決のプロセスを明確に伝えることができる。他者と討論することによって、より知見を広げ研究を深めることができる。これらを通して、プレゼンテーションの技術を向上させ、研究に取り組む自主性・積極性を身につけている。

(DP5) 専門分野の知識・技能の活用力 [知識、理解、思考力、表現力、技能、主体性、協働性、多様性]

国語学においては、古今の日本語の特質を実証的に解明することによって、広く日本の言語文化を体系的に把握する。国文学においては、上代から現代に至る古今の文学の的確な読解を通して、広く日本の知性と感性のありようを理解する。漢文学においては、漢文文献の読解を通して、様々な思想とその多様な表現のありようを学ぶ。〈ことば〉をめぐって、文化や思想を学ぶことは、自己を再発見していくことにつながる。

## 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と学習評価の観点のマトリクス表

◎：特に重点を置いている ○：重点を置いている			学修評価の観点												
			知識	理解	技能	思考力	判断力	表現力	関心	意欲	態度	主体性	多様性	協働性	
卒業認定・学位授与の方針	DP1	建学の理念を实践する力		○						◎	◎	◎	○		
	DP2	多様性の理解と尊重	○	◎						○	○	○	○	◎	○
	DP3	情報分析力と問題解決力			○	◎	◎	○					○		
	DP4	コミュニケーション能力			○	○		◎					○	◎	○
	DP5	専門分野の知識・技能の活用力	◎		◎	○	○	○					◎	○	○

※学習評価の観点は「学力の三要素」と「学習指導要領」に基づく。

## 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

国文学科は、国文学を学ぶ上で必須の知識である仏教への理解を深め、また人文・社会・自然にわたる幅広い教養分野を習得し、複雑な現代社会に柔軟に対応できる総合的・基礎的な力を備えさせる。その上で、文学を成り立たせている日本語そのものの研究を行う国語学、上代から現代までの日本文学を研究する国文学、様々な思想とその多様な表現方法を学ぶ漢文学を三つの柱として、古来日本人が育ててきた研ぎ澄まされた感性を身に付け、人間への深い洞察力や、論理的な思考力を有する人材を養成することを目的とする。

教育内容、教育方法については下記に定める内容に従う。

### 1. 教育内容

- 1) 専門基礎教育として、1年次に必修科目を置く。高校で習得した国語力を確認し、大学での専門教育への橋渡しとする「日本語文法入門」、2年次以降の専門教育への導入として、国語学・国文学・漢文学の基礎的な知識、研究方法、問題の発掘の仕方などを学ぶ「基礎国語学」、「基礎国文学Ⅰ・Ⅱ」、「基礎漢文学」を開講する。
- 2) より専門性の高い講義科目「国語史」、「国語学史」、「国文学史Ⅰ・Ⅱ」（選択必修として各4単位、計12単位）を通して、幅広い見通しを持てるようにする「〇〇研究」（選択必修として各4単位、計8単位）、「〇〇特講」（選択科目として各4単位）により、各領域・各時代の特殊な内容を学び、自らの専門分野の知識と問題意識をさらに高める。
- 3) 2～4年次にかけて、少人数クラスによる演習科目（ゼミ）を組み合わせることで、専門発展教育を行なう。問題提起、分析と読解、討論、論述を実践的にこなすことにより、自立的で自主的な学習態度を徹底させ、自らの見解を論理的に構築できるよう育成を目指す。
- 4) 3年次までの学修をもとにし、より限定された専門分野を深く考究し、卒業論文として成果をまとめる。専門的な調査・研究・資料作成・発表の成果を形にする。

### 2. 教育方法

- 1) 高校での学習と専門的な大学での研究に必要な知識や方法の習得が可能になるように基礎力の確認を丁寧に行う。

- 2) 得意分野に限定せずに、多様な価値観や複雑な時代・文化状況を視野に収め、多角的に文献や資料を読み解くことができるように授業を展開する。
- 3) 事前に演習の履修説明会を行い、ゼミの内容を知らせることにより、ミスマッチを出来る限りなくす。少人数制の授業により、他者と協働する力やコミュニケーション能力を鍛えるのに適した授業を行う。また、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業とする。
- 4) 演習科目（ゼミ）履修生全体に対する指導とともに、学生の個別の指導によりきめ細かな指導を行う。個別指導を通して、担当教員と学生との密接なコミュニケーションを促し、学んだ知識の理解を深めるようにする。

### 3. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と教育課程の編成・実施のマトリクス表

◎：特に重点を置いている。○：重点を置いている。

	科目群等	履修 単位	配当 学年	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	各科目群のねらい
駒澤 人育 成基 礎プ ログ ラム  全 学 共 通 科 目	仏教と人間	4	1	◎					仏教の教えと禅の精神について理解を深め、宗教に対する正しい認識を身につける。
	新入生セミナー	2	1	○	○		◎		高校までの学びから大学の学びへの転換を図り、自立的で自主的な学習態度を身につける。
	キャリア教育	2	1~2			◎			社会的・職業的自立、社会・職業への円滑な移行に必要な力を身につける。
	実用英語	1	1~2		○		◎		「聞く」「話す」に重点を置いた英語教育を行う。
	日本語リテラシー教育	2	1				◎		日本語の「読む」「書く」の基礎的なレベルを身につける。
	ICT教育	2	1			◎			ICTスキルおよびICTリテラシーを身につける。
	人文・社会・自然・ ライフデザイン分野	2~4	1~4		◎				多角的な知識と深い教養を体系的に身につける。
	外国語科目	1~2	1~2		◎		○		様々な異言語、異文化に対する多角的な知識と深い教養を身につける。
	健康・スポーツ分野	1~2	1~4		◎		○		スポーツの実技能力や健康に関する理論を身につける。
専 門 教 育 科 目	導入教育科目	2~4	1					◎	4年間の大学生活で必要になる学びの初歩的な方法を身につける。
	専門基礎科目	4	1			○		◎	専門分野の基礎知識や方法論を体系的に身につける。
	専門発展講義科目	4	2~4		○	○	○	◎	より高度な内容・芸能などの特殊な分野を学び、実際にそれらを使用した研究を行う。
	専門応用講義科目	4	2~4		○	○	○	◎	専門の知識を生かし、専門外や隣接する分野に発展させる体験学習等を行う。
	演習科目	4	2~4	○		○	○	◎	少人数クラスで指導教員との密なコミュニケーションを取り、議論や発表を行う。
	卒業論文	8	4	○			○	◎	4年間の学びの集大成として、自ら設定した研究テーマに関する論文を作成する。

## 入学者受け入れの方針(アドミッション・ポリシー)

国文学科は、駒澤大学及び文学部入学者受け入れの方針(アドミッション・ポリシー)に則り、以下のとおり入学者選抜を行います。

### 1. 国文学科が求める学生像

- (AP1) 高校までの履修課程において習得した知識、特に、現代文・古典の諸分野における基礎的な学力を身につけている。[知識、理解、技能]
- (AP2) 仏教と禅の精神を建学の理念とする本学に対して理解を示し、多様な知的好奇心を抱き、柔軟な視点・発想を有して自らの関心を掘り下げようとする意欲を持つ。また、日本の文学作品や文化に関心を抱いて日頃から読書に慣れ親しみ、言葉や人間に対する理解を深めようとする。特に、国語学・国文学・漢文学に強い関心を持ち、それを支える幅広い知識・読書経験などを有している。[意欲、関心、態度]
- (AP3) 日本の文学・文化について考察を深め、その成果をまとめ上げて発表報告する表現力を持つとともに、討議などが支障なくできるよう、他の人との関わり合いの中で基本的なコミュニケーション能力を身につけている。[思考力、判断力、表現力]
- (AP4) 日本の文学・文化に主体的な関心と学修意欲を持つとともに、さまざまな国の文化・社会の多様性を認識・尊重し、自らと異なる考えを持つ他者と協働することができる。[主体性、多様性、協働性]

### 2. 入学前に修得することが望ましい教科、取り組むべき活動や学習習慣

- 高等学校における「国語」において、国語学・国文学(古典・現代文)・漢文学に関する基礎的知識と教養を習得している。特に、以下の項目に取り組んでほしい。
  - ・漢字を調べ、意味を理解し、正確に書けるようにする。
  - ・語彙力をつける。
  - ・文章が正確に読めるようにする。
  - ・古文単語、古典・近現代を通じた文学史、文法に関する基礎的な知識を身につける。
- 国語の教科書で学習する文学作品以外にも日本、世界の文学作品に触れる。
- 文学作品以外の文章、社会の出来事に関わる新聞記事や本にも関心を持って、数多く読んでおく。
- 日常的な言語生活の中で言語感覚を身につけ、表現力を高め、コミュニケーション能力の向上に努める。
- 異なる文化や社会背景を持つ人々を理解し、協力して活動することに努める。

### 3. 求める学生像と入学者選抜方法のマトリクス表

◎: 特に重点を置いている。○: 重点を置いている。

入学制度		選抜方法	AP1	AP2	AP3	AP4	各入学制度のねらい
一般選抜	全学部統一日程	教科	◎		○		高等学校で修得した教科の理解度を重視し、特に知識や思考力に優れた学生の受け入れを目的とする。
	T方式	教科	◎		○		
	S方式	教科	◎		○		
大学入学 共通テスト利用選抜	前期	教科	◎		○		高等学校で修得した教科の理解度を重視し、特に知識や思考力に優れた学生の受け入れを目的とする。
自己推薦選抜	総合評価型	出願書類	○	○			本学の教育の理念を理解し、本学で学ぶ意欲が高く、学科の求める学生像と適合する学生の受け入れを目的とする。
		筆記	◎	◎	◎	◎	
		面接・口頭試問	○	◎	◎	◎	
特別選抜	スポーツ推薦選抜	出願書類	○	○			スポーツ競技で高い能力を持ち、スポーツにおいて本学に貢献することのできる学生の受け入れを目的とする。競技部の部長の推薦を得られた者を対象として選考を行う。
		事前課題	◎		○		
		面接・口頭試問	○	◎	◎	◎	
	指定校推薦選抜	出願書類	○	○			本学の教育の理念を理解し、本学で学ぶ意欲が高く、かつ学力・人物とも良好で他の学生の模範となる学生の受け入れを目的とする。高等学校長の推薦を得られた者を対象として選考を行う。
		面接・口頭試問	○	◎	◎	◎	
	附属高等学校推薦選抜	出願書類	○	○		○	本学の教育の理念を特によく理解し、本学で学ぶ意欲が高く、かつ学力・人物とも良好で学内でリーダーシップを発揮できる学生の受け入れを目的とする。高等学校長の推薦を得られた者を対象として選考を行う。
		事前課題	◎		○		
	社会人特別選抜	出願書類	○	○			社会人に大学の門戸を開くことで、生涯を通じて学修に取り組める環境づくりに資する。また、社会経験を有する学生の受け入れにより、学内の活性化を図る。
		筆記	◎	◎	◎	◎	
		教科	○				
		面接・口頭試問	○	◎	◎	◎	
	帰国生特別選抜	出願書類	○	○			国際的感覚を身につけた、個性ある勉学意欲旺盛な学生の受け入れにより、学内の活性化を図る。
		筆記	○				
		教科	○				
		面接・口頭試問	○	◎	◎	◎	
外国人留学生選抜	出願書類	○	○			国籍・文化的背景の異なる留学生の受け入れにより、学内の多様性を確保し活性化を図る。日本学生支援機構が行う「日本留学試験」の受験を出願条件とする。	
	日本留学試験(成績)	○					
	筆記	◎					
	面接・口頭試問	○	◎	◎	◎		
編入学者選抜	出願書類	○	○			大学入学後の進路変更や社会人の学び直しに対応し、学生の多様な将来設計を可能とする。また、多様な経験を有する学生受け入れにより、学内の活性化を図る。大学・短期大	
	筆記	◎					

	教科	◎				学・高等専門学校等を卒業した者や他大学在 学中の者等を対象とする。
	面接・口頭試問	○	◎	◎	◎	